

学校経営方針

人工知能の開発に象徴されるように、時代は急速に発展している。そういった変化の激しい未来社会において子どもたちが活躍できるよう、直近の英語教育や特別の教科道徳の導入に加え、GIGAスクール構想は3年目と新学習指導要領がスタートして4年目を迎え教育がスタートした。同要領では従来の「何を」「どれだけ」に「どのように」教えるのかが加えられた。

また、本校では「子どもたちを第一に 笑顔あふれる学校」を核に、全教職員が一丸となって全児童を育てていきたい。

具体的には、次の例示の通り「どのように」子どもたちを導いていくのかを大切にしていく。教育は、学校だけで成せるものではない。これまで本校が築きあげてきたCPTAの精神を大切に、学校・家庭・地域が連携・協働して本校の教育を推進していく。そして、校歌にもあるように子どもたちが心のふるさと「いずみ野」にしっかりと太い根を張ることができるようにし、将来、本校で学んだことを次世代の子どもたちに伝承できるような人材、すなわち持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成していきたいと考える。そのためには、子どもにとっての最大の教育環境である教師・保護者・地域の方々が、正面から子どもと向き合い、正しく認め、しっかりとほめることが肝要である。その結果、子どもは自信をもって様々な活動に取り組むことができるようになる。さらに、子どもにかかわるすべての人が深い愛情をもって子どもと接することによって、子どもの自尊感情を豊かにし、自己有用感を高め、安心して伸び伸びと生活することができるようになる。

このような取組を通して、「自分が好き、友だちが好き、学校が好き、このまちが好き」という本校の学校教育目標の具現化を推進し、学校経営していく所存である。

また、働き方改革の下、教職員が効果的に業務を遂行していくことによって、健康を推進するとともに教職員自身の幸せが子どもに還元されるようにしていきたい。

〈知・徳・体・公・開で示した学校教育目標の具現化を推進する〉

- (1) 学校・家庭・地域が連携・協働し責任をもって教育に取り組むCPTA活動を柱に、学校運営協議会にて協議しながら地域参画型の学校づくりを推進する。
○学校運営協議会の支援を得て、家庭・地域と連携・協働して学校が抱えている課題解決を図ったり、教育環境のよさをCPTA活動として積極的に教育活動に生かしたりしていく。
- (2) 地域の教育財を積極的に教育活動に取り入れ、特色ある学校づくりを行う。
○自然や人材に恵まれたいずみ野の特色を活かし、農業生産活動を柱に教育活動を展開する。
- (3) ふれあいや体験を通して生き方を学び、心と体を育てる。
○様々な方々との出会い、ふれあいができる機会をもち、生き方を学び、心も体も健康な生活をおくることができるようにする。
- (4) 一人ひとりの教育ニーズをとらえ、誰もが安心して心豊かに生活できる学校づくりに努める。
○児童支援専任教諭を核として児童理解に努め、特別支援の必要な児童や配慮を要する児童への支援方法、指導方法について共通理解しながら、家庭、関係機関等と連携して支援する。
- (5) いずみ野の特色を活かしながら、教職員が指導力を発揮し、保護者や地域に信頼される学校づくりに努める。
○基礎・基本の定着や読解力、表現力の向上を図るために、研究・研修に勤しみ、授業の充実、積極的な学習ボランティアの活用による学習支援、家庭との協力等を行う。
- (6) 義務教育9年間を見通した教育を行う。
○スタートカリキュラムに基づき、小一プロブレムの解消のため学校生活への滑らかな移行ができるよう、幼保小の連携を強める。
○いずみ野中ブロックの交流を中学校だけでなく小学校間でも行い、情報を共有して課題解決に努めると共に、小中一貫教育を推進する。
- (7) 教育の改善・推進に努める。
○教育課題を共通理解し、推進担当を中心にチームとしてR（リサーチ）→PDCAサイクルによる学校運営を行い、改善しながらより良い教育活動が展開できるように努める。